

# 論壇

## 保育受ける権利 最優先を

新年度が始まり、大人も子どもも緊張感が高い中、10日に那覇市こども教育保育課から、那覇市全園に注意喚起として次のようなメールが来た。

「新年度となる4月は、こどもの新入園や進級、各施設で勤務する職員の入れ替わりなど、教育・保育施設等において環境が大きく変わる時期であり、重大事故の発生が特に懸念されます。例えば、この時期は、登園後、園児が保護



ワールド  
ウィンフー  
ひろみ

## ストレス多い新年度

者を追いかけ、園外へ出てしまう事案等が懸念されます。このような園児の見落とし等の事故発生防止については、安全計画の中で位置付けされていると思いますが、今一度、園児の受け入れ態勢について職員間でしっかり共通確認を行い、さらにその内容については保護者にも周知を図り安全管理の徹底をお願いいたします」

3日午前9時1分に、気象庁からの津波警報で「ただちに避難」とあった際には、全県が震撼して避難行動を取った。そんな際、子どもを必死で避難させる保育者たちには、本当に頭が下がる。新年度に慣れない子どもたちを連れての避難は想像を絶する。

12時12分に那覇市こども教育保育課からは「那覇市全域の避難指示が解除になりました。安全を確認し、通常保育を行ってください」とメールが送信されていたのには驚愕した。通常保育を実施できるかは地域にもより、園長判断が必要になる。「何もなかった」と胸をなで下ろすと同時に「子どもの命を必死で守らねば」と思った心労と労力を考えると、とてもではないが「通常保育」にすることは難しいと思った。

翌日の子どもたちは、またあのサイレンが鳴るのではないかと不安な表情がうかがわれた。各園でも避難方法がどうだったのかの検証をされて、次の安全計画を迅速に立てたと思う。そんな中での冒頭の注意喚起メールは、新年度の過酷な状況を映し出している。幼い子どもたちは、新しい環境に慣れるのに大変だし、泣き叫び落ち着かない園児たちに、細やかに対応する保育者たちのストレスは計り知れない。働き始めたばかりの新保育者たちは、このような状況に耐えられずに1カ月で離職しかねない。

国が打ち出している子育て支援策の一つに「こども誰でも通園制度（仮称）」とあるが、毎日慣らし保育のような状況になると在園児、保育者たち、「誰でも通園」する児童にとってもいい状況ではないと思われる。それよりも「全ての子どもには保育を受ける権利」があると称して、保育を保障するのが先ではないだろうか。

（浦添市、保育園園長、59歳）